



ハイドロセラ・フロアPU(厚型/グリップ)

<小便器下用途編>

製品の機能が十分に発揮されるよう、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。

安全上の注意(安全のために必ずお守りください。)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

●この説明書では製品を正しく取り付けいただき、お客様やほかの人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の可能性が想定される内容を示しています。

	してはいけない「禁止」内容です。
	必ず実行していただく「強制」内容です。

警告	
	施工時は防塵マスクや保護メガネやヘルメット、軍手などの安全防具を着用する ハイドロセラ・フロアPUはセラミックでわれもののため、万が一破損した際に、破片で失明や切創など重大な事故につながるおそれがあります。
必ず実行	

注意	
	小便器下以外には設置しない 水ぬれすると滑りやすくなるため、歩行部位に設置すると滑りケガをするおそれがあります。
	多目的トイレなど広い空間には設置しない 広い空間においては歩行部位と同様、滑りケガをするおそれがあります。
	ハイドロセラ・フロアPUに衝撃を与えない ハイドロセラ・フロアPUはセラミックでわれもののため、過度な力や変形により破損しケガをするおそれがあります。
	ハイドロセラ・フロアPUに下穴をあける際、振動ドリルは使用しない ハイドロセラ・フロアPUはセラミックでわれもののため、過度な力や変形により破損しケガをするおそれがあります。
	設備留め付けビス及びプラグはハイドロセラ・フロアPUに直接留め付けない ハイドロセラ・フロアPUはセラミックでわれもののため、過度な力や変形により破損しケガをするおそれがあります。
	運搬時の取り扱いに注意する ハイドロセラ・フロアPUはセラミックでわれもののため、過度な力や変形により破損しケガをするおそれがあります。
	製品の切断面は鋭利になっているので面取り処理を行い、取り扱い時は軍手などの安全防具を着用する 切断面でケガをするおそれがあります。
	ポリマーセメントモルタルでの改良圧着張りもしくは接着剤張り工法の場合は接着強度確保のため、2mm/2m以下の下地精度を確保する 下地精度が確保されていないと、接着強度が確保されないため、破損しケガをするおそれがあります。
	シート材への上張りはできません。本製品を施工する箇所のシート材を剥がしてから施工してください。
	改良圧着張りの場合はポリマーセメントモルタルを使用する セメントモルタルを使用すると、ハイドロセラ・フロアPUの剥離につながり、破損やケガをするおそれがあります。
	接着剤張りの場合は「JIS A 5548 タイプ1」相当の非弾性型2液エポキシ樹脂系接着剤を使用する 指定外の接着剤を使用すると、ハイドロセラ・フロアPUの剥離につながり、破損やケガをするおそれがあります。
ハイドロセラ・フロアPUの加工には磁器タイル用の工具を使用する 専用外の工具を使用すると、工具の破損やハイドロセラ・フロアPUの破損につながり、ケガをするおそれがあります。	

■ハイドロセラ・フロアPU施工の前に

ハイドロテクト技術による防臭、抗菌の機能性と大型セラミックパネルの耐久性、清掃性を併せ持つハイドロセラ・フロアPUの特徴を最大限に生かすには、施工・納まりに注意する必要があります。本書に従って設計施工をお願いします。

●設計様へ・・・

① 割り付けについて

フロアPUを割り付ける際、小便器心(排水心)が、フロアPUの幅中心になるようにしてください。清掃性、防汚性を考慮して、人の立ち幅 600mm 以内に目地がこないように設計しています。製造上の都合で、長辺・短辺寸法に±0.5mm の公差があります。

② 目地仕様について

セメント系目地材、もしくはシリコーンシーリング材を使用してください。ただし、塩ビシートなど異素材との取り合いや、便器や壁との取り合いはシリコーンシーリング材を使用してください。

●建築会社様へ・・・

下地づくり

- ・FL-40mm 以上が確保できる場合、セメントペースト張り(敷きモルタルによる工法)が推奨です。フロアPUがFLと同一面になるように、敷きモルタルなどで下地高さを調整してください。
- ・FL-40mm が確保できない場合、ポリマーセメントモルタルでの改良圧着張りもしくは接着剤張り工法となります。ただし、この工法では高さ調整が難しいことや、接着強度確保のため、2mm/2m 程度の下地精度が必要です。下地の作製には、金ゴテでの面出し仕上げやセルフレベリングモルタルの使用をおすすめします。

●設備業者様へ・・・

① フロアPUの切断加工、穴あけ加工

- ・床排水小便器の排水管穴が、あらかじめ決まっている場合、切断加工などは、工場加工をおすすめします。施工前に加工手配をしてください。(費用別途)
- ・現場での加工は、磁器タイル用工具をご使用ください。

② 小便器の設置

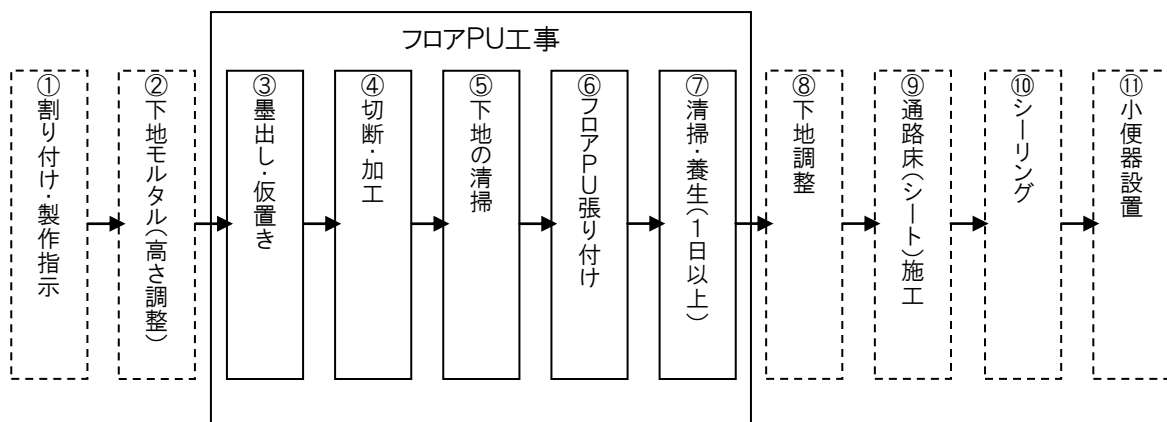
- ・フランジの留め付けビスは、フロアPUに直接留め付けることはできません。必ず、ビスより大きめの穴をあけ、ビスとフロアPUが緩衝しないようにしてください。※フロアPUの破損の原因となります。
- ・フランジ留め付けビスは、フロアPUの厚さを考慮して、長めのビスを準備ください。

③ リモデルの場合

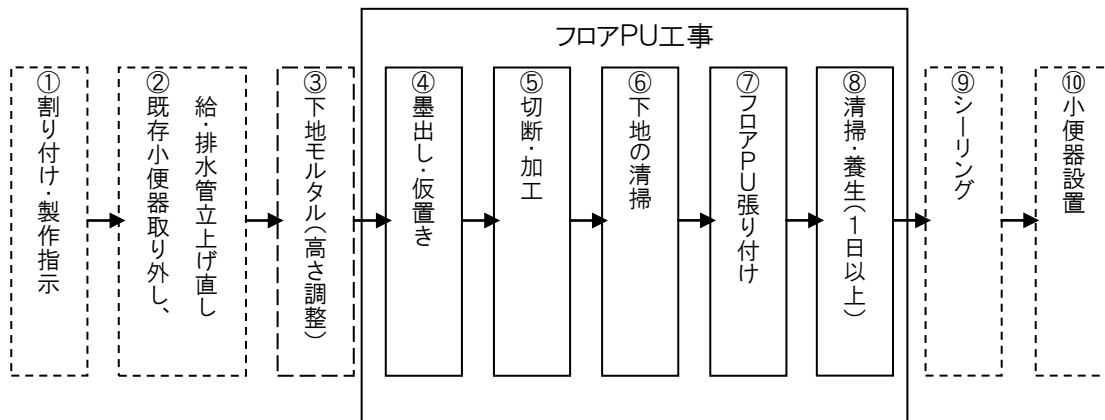
- ・既存小便器のフランジは使用できません。新規でフランジを準備してください。
- ・既存床に上張りした場合、フロアPUの厚さ分だけ、排水管・給水管の位置が高くなります。排水管、給水管の立上げ直しが必要になります。

■施工の流れ

【新築の場合】



【リモデルの場合】

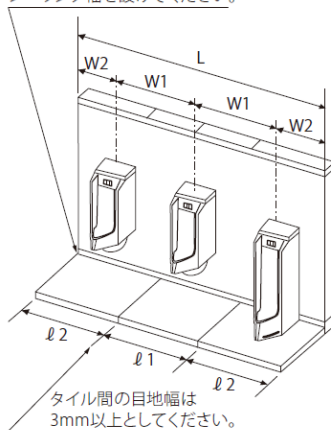


■ 割り付け

- 小便器の中心(排水心)が、フロアPUの中心になるように割り付けしてください。(図一1参照)
- 壁との取り合いは壁仕上げを飲み込みとし、シーリング幅を 5mm 程度設けてください。
- フロアPU間の目地幅は 3mm 程度設けてください。

	適正寸法 (mm)
小便器の心々間 (W1)	800、900
壁からの小便器心 (W2)	400~500

壁とタイルの間に5mm程度のシーリング幅を設けてください。

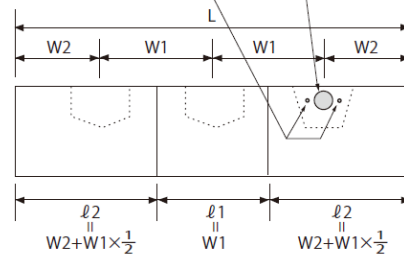


【排水管用穴】

工場にて加工します。(加工費別途)

【金具固定用穴】

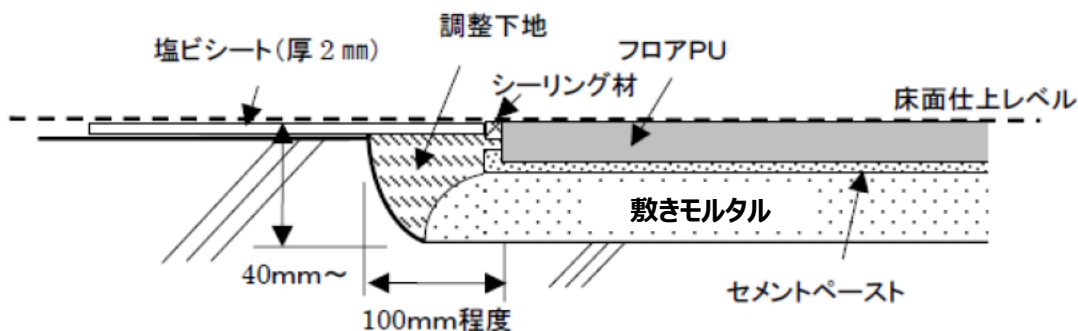
配管の立ち上がり位置、金具の種類にあわせて、現場にて加工ください。



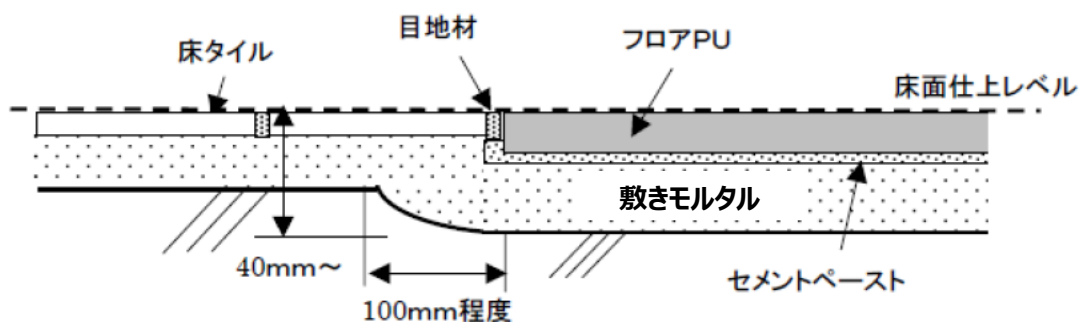
【図一】

■ フロアPUの納まり

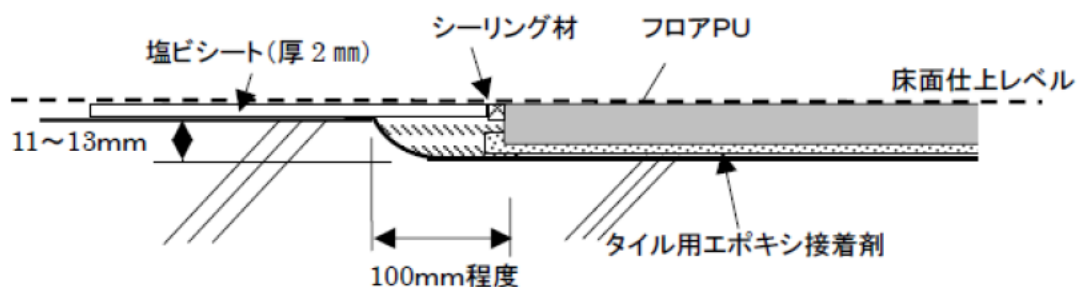
- セメントペースト張り工法で、フロアPUと床タイルまたは、塩ビシート材を同面施工した場合【塩ビシートとの張り合わせ】



●セメントペースト張り工法で、フロアPUと床タイルまたは、塩ビシート材を同面施工した場合
【床タイルとの張り合わせ】



●接着剤張り工法で、フロアPUと塩ビシートを同面施工した場合
【塩ビシートとの張り合わせ】



- ・接着剤張りの下地は、2mm/2m 以下の下地精度を確保してください。
- ・接着剤は、「JIS A 5548 タイプ I 相当の非弾性型 2 液エポキシ樹脂系接着剤」をご使用ください。
- ・塩ビシートとフロアPUの取り合いは、シーリングしてください。

★ポイント

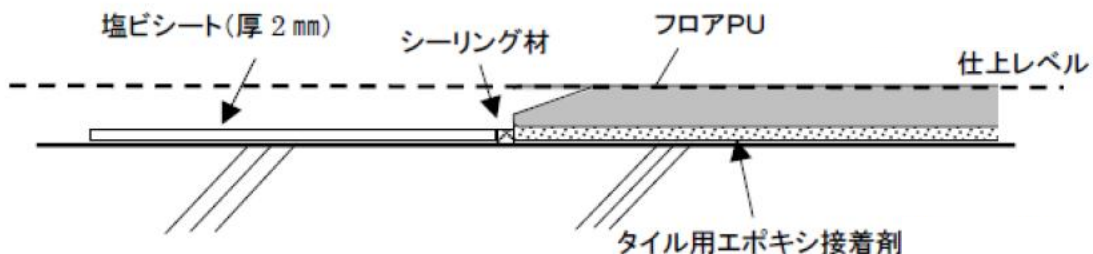
塩ビシートがめくれないように、フロアPUとの取り合いは、フロアPUのFLと同一もしくは下となるようにしてください。

×	○	
<p>《フロアPUより上面》</p>	<p>《フロアPUと同面》</p>	<p>《フロアPUより下面》</p>

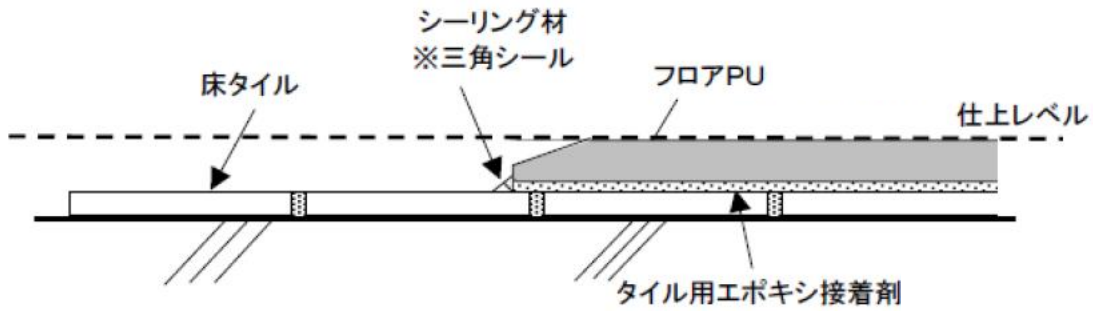
- リモデル工法で既存床に段差をとって、フロアPUを施工した場合
- ・床面と段差をとった施工をする場合は、フロアPUのテーパ加工品をご使用ください。
- ・接着剤張りの下地は、2mm/2m 以下の下地精度を確保してください。
- ・フロアPU(グリップタイプ)は、テーパ加工に対応しておりません。同面仕上げのみ施工可能です。

【塩ビシートとの張り合わせ】

※塩ビシートの上に、直接フロアPUを張ることはできません。フロアPUの張り付けを行う部分の塩ビシートを剥がして、下地調整をしてください。

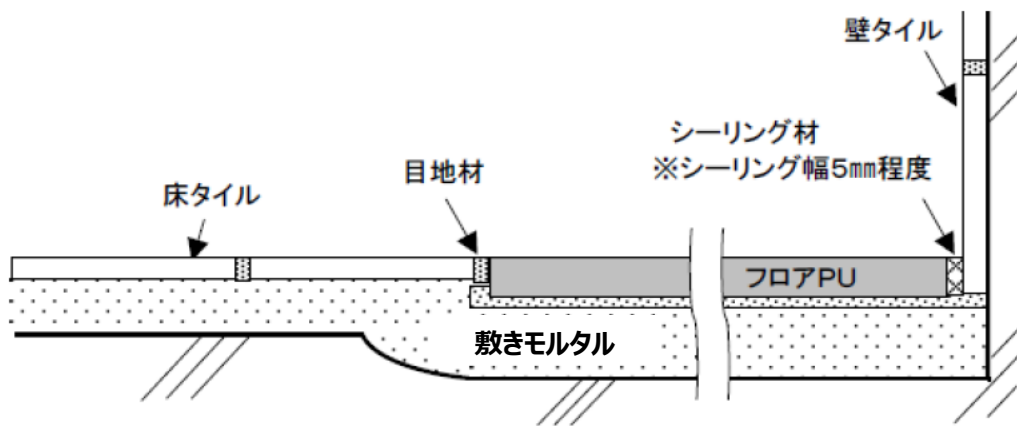


【床タイルとの張り合わせ】



●壁との取り合い

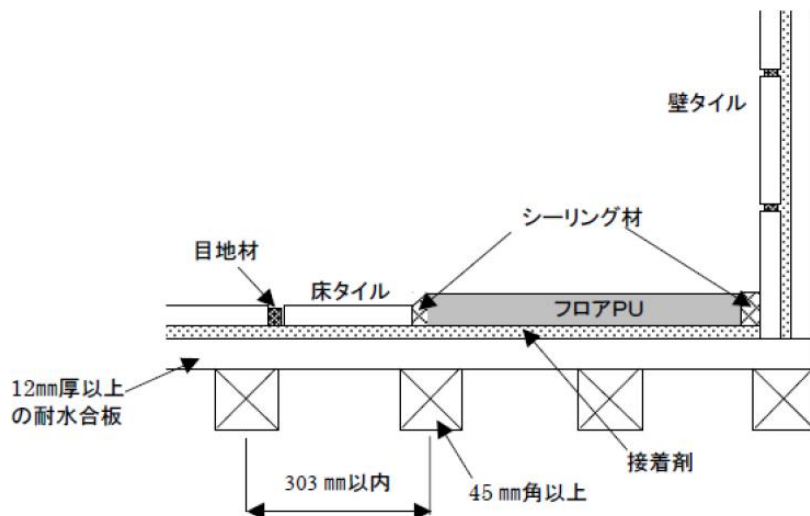
・壁との取り合いは、壁仕上げを飲み込みとし、シール幅を 5mm程度設けてください。



●木質下地の場合

◆推奨下地

- ・根太のピッチは、303mm 以内としてください。
- ・根太のサイズは、45mm 角以上としてください。
- ・合板での段差をなくすために、根太はプレーナーがけしたものをご使用ください。
- ・厚さ 12mm 以上の耐水合板をご使用ください。
- ・下地は、2mm/2m 以下の下地精度を確保ください。
- ・下地は、フロア PU がまたがらないように、なるべく 1 枚物になるように割り付けてください。



- ・接着剤は、「JIS A 5548 タイプ I 相当の非弾性型 2 液エポキシ樹脂系接着剤をご使用ください。
- ・接着剤は、クシ目コテで、フロア PU 全面に接着してください。
- ・床タイルや他部材、フロア PU 同士の取り合いは、シーリングで納めてください。(5mm 程度)

■施工方法

●施工工具

工程	必要工具	補足
切断	・ディスクグラインダー ・電動丸ノコ ・磁器タイル用ダイヤモンドホイール ・ダイヤモンド砥石など	
穴あけ ※給水穴・ビス穴	・電動ドリル ・磁器タイル用ダイヤモンドホールソー ・磁器タイル用ダイヤモンドコアビット	ビスの穴あけは、ビス径より4mm以上大きいサイズを使用ください。
貼り付け	改良圧着張り ・クシ目コテ、左官コテ、コテ板など	ポリマーセメントモルタルを使用ください。 セメントモルタルでは施工できません。
	接着剤張り ・クシ目コテ、コテ板など	接着剤は JIS A 5548「タイル張り用接着剤」のタイプ 1 に対応する非弾性型2液エポキシ樹脂系接着剤を使用ください。

⚠加工に関して

- 加工の際は防塵マスクや保護メガネなどの安全防具を着用してください。
- 切断面は鋭利になっていますので、施工中のケガを防止するためにダイヤモンド砥石などで面取りを行ってください。
- 排水穴あけ加工を現場にて行う場合は、必ず磁器タイル用の工具を使用ください。

●施工方法

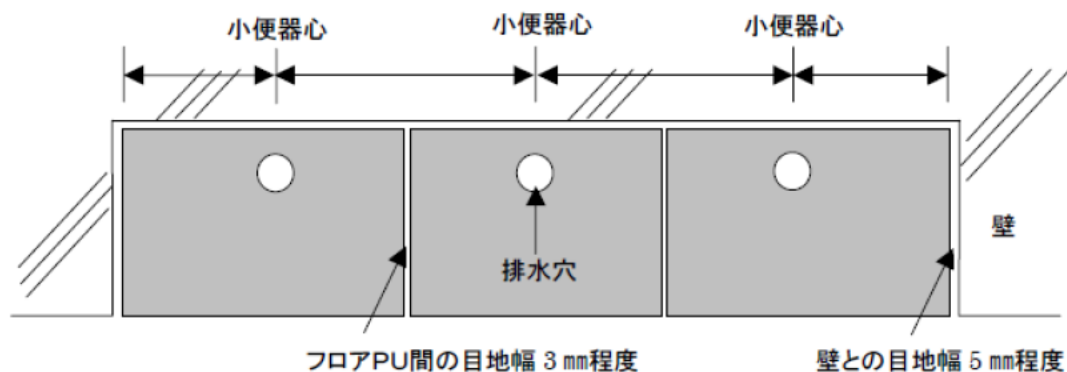
施工方法	下地	張付け材
セメントペースト張り	敷きモルタル 厚さ 30~40mm ・FL-40mm 以上確保する	セメントペースト
改良圧着張り	下地モルタル金コテ押さえ (セルフレベリングモルタル) ・面精度 2mm/2m 以下	ポリマーセメントモルタル クシ目全面+フロアPU裏面塗布
接着剤張り	下地モルタル金コテ押さえ (セルフレベリングモルタル) ・面精度 2mm/2m 以下	非弾性型2液エポキシ樹脂系接着剤 (JIS A 5548 タイプ 1) クシ目全面接着
リモデル工法-1	塩ビシートおよび接着剤を除去した面 ・面精度 2mm/2m 以下 ・不陸が大きい場合は下地調整 ※1	・ポリマーセメントモルタル クシ目全面+フロアPU裏面塗布 ・非弾性型2液エポキシ樹脂系接着剤 (JIS A 5548 タイプ 1)
リモデル工法-2	既存タイル ※2 ・面精度 2mm/2m 以下	クシ目全面接着

※1. 下地調整にはスクレイパー(塩ビシートおよび接着剤除去)、ディスクグラインダー(不陸部の研削)などを使用ください。

※2. タイルに浮きがないことを確認してください。浮いているタイルは剥がし、モルタルで調整してください。

1.小便器のピッチを確認し、墨出しを行います。

- ・小便器心(または、排水心)に中心合わせで仮置きし、心墨に従い長さを切断調整します。
 - ・壁との取り合いに、目地(5mm 程度のシーリング幅)ができるように、切断加工してください。
 - ・床に給水管がある場合は、位置取りを行い、ダイヤモンドホールソーで穴加工をしてください。
- ※給水管穴は、現場誤差があるため、現場合わせで穴加工を行ってください。



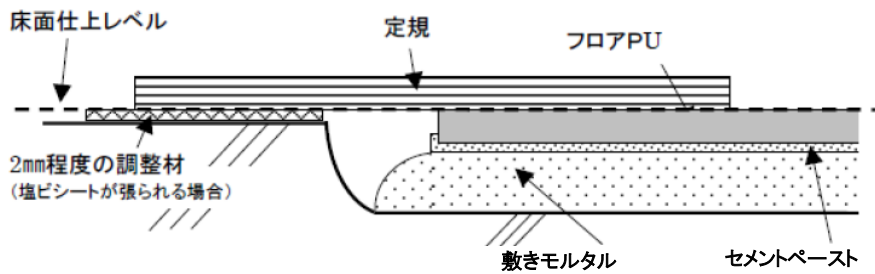
★ポイント

切断加工は、平らな台の上で行います。浅木などで浮かせて加工すると、割れ・欠けが発生しやすくなります。

2.フロアPUを張り付けます。

●セメントペースト張りの場合

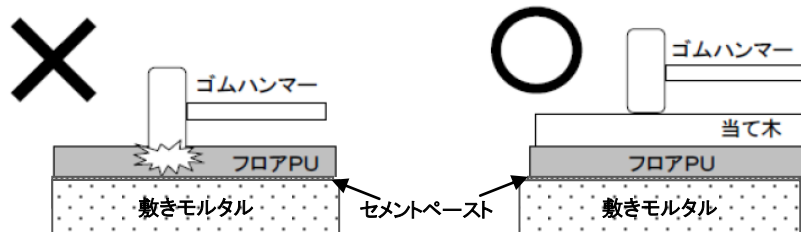
- ・FL-40mm以上の下地を確保してください。
- ・フロアPUがFL面になるよう、敷きモルタルで高さを調整してください。



★ポイント

床側の仕上がり高さ合わせるため、定規などでフロアPUの高さを調整します。

- ・張り付けの際はフロアPUの裏面にすき間ができないよう、十分密着するように張り付けてください。
- ※叩き込む際、必ず当て木を使用してください。



●改良圧着張り、接着剤張りの場合(リモデル工法-1、-2含む)

《改良圧着張り》

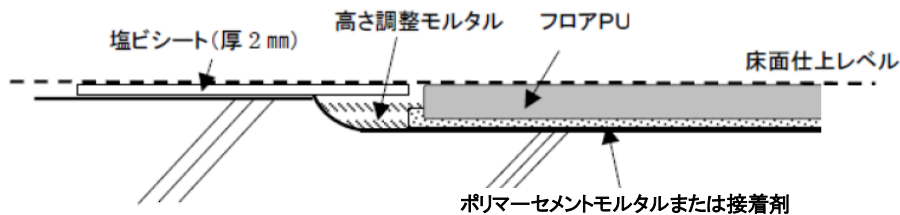
ポリマーセメントモルタルを、クシ目コテを使用して下地全面に塗布した後、フロアPU裏面にもポリマーセメントモルタルを薄く塗り付けて張り付けます。

※セメントモルタルでの施工はできません。

《接着剤張り》

接着剤を、クシ目コテを使用して全面に塗布した後、フロアPUを張り付けます。

※接着剤は「JIS A 5548 タイプ 1」相当の非弾性型2液エポキシ樹脂系接着剤を使用してください。

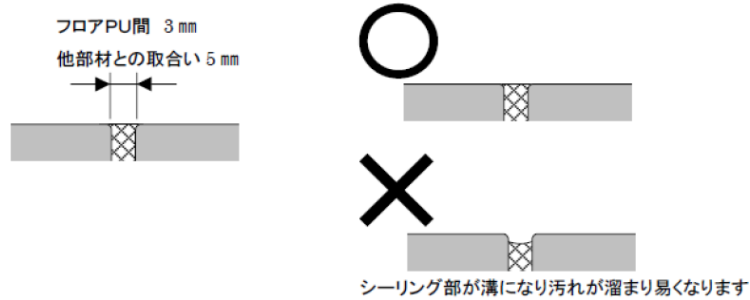


※張り付けの際は、フロアPUの裏面に隙間ができないように、十分密着するように接着してください。

※1日養生後、目地処理を行います。

3.目地シーリング

- ・シーリングの施工に関しては、シーリング部が溝形状にならないように、面で合わせる様に押さえます。
- ・シーリングは汚染が少なく汚れにくい、濃色系のシリコンシーリング(防カビタイプ)をおすすめします。



■設備の設置

1.フランジ、排水ソケットの留め付け

- ・磁器タイル用ダイヤモンドコアビットを使用し、フロアPUに留め付けビス径より4mm以上大きい下穴をあけます。
※フロアPUに下穴をあける際、振動ドリルの使用は避けてください。フロアPUの破損の原因となります。
- ・下地には、ビスに合った系の下穴をあけてください。
※振動ドリルを使用する際は、フロアPUに接触しないよう注意し、ゆっくりと加工をしてください。
- ・プラグを使用する場合は、下地に留め付けてください。
※フロアPUに直接留め付けることはできません。フロアPUの破損の原因となります。また、プラグ挿入時はフロアPUに衝撃を与えないよう注意してください。
- ・ビス留めは締めすぎに注意し、最後は手締めで行ってください。
※インパクトドライバーの使用は避けてください。フロアPUの破損の原因となります。

2.小便器の設置

- ・衝撃を与えないようにゆっくりと設置してください。強い衝撃を与えるとフロアPUが破損するおそれがあります。